

○長屋高校生議長

休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、大和高田市立高田商業高等学校、25番、西田早希議員、26番、奥田夢詩議員に発言を許します。



(県立国際高等学校 長屋 枝里 議員)

○西田議員

25番、西田早希です。大和高田市立高田商業高等学校の紹介をします。

本校は、かつて紡績業でにぎわっていた大和高田市にある市立商業高校です。実業高校ということもあり、生徒はいつでも面接が行える状態を意識して、ふだんの生活を送るように心がけています。「礼儀・清純・誠実」の校訓の下、いかなるときでも挨拶は元気よくをモットーにしています。



(大和高田市立高田商業高等学校 西田 早希 議員)

本校にはたくさんの魅力があります。本校は部活動に力を入れており、多くの運動部、文化部と

もに近畿大会や全国大会に出場しています。特にソフトテニス部は全国優勝を果たすなど、とても活躍しています。また、資格取得にも力を注いでおり、商業検定の取得率は常に全国上位を維持するなど、文武両道の生活を送っています。また、本校には、地域をよりよくするために結成された「まち部。」という団体があります。「まち部。」では、地域を盛り上げるための商品開発を軸に活動しています。最近では、大和高田市立高田商業高等学校の伝統行事であるすき焼きパーティーを基に、レトルトのすき焼きを開発し、販売しました。

本校は、思い出づくりの名人と言われるほど様々な行事があり、その一つがすき焼きパーティーです。このすき焼きパーティーは先輩から後輩へすき焼きを振る舞うのですが、作る先輩によってそれぞれ味が違っており、それが魅力となっています。そのほか、球技大会や文化祭などの行事やイベントも数多くあります。特に文化祭では、毎年全てのクラスがそれぞれの個性を生かしたお店を出したり、ユーモアにあふれる舞台発表をしたりと、とても盛り上がります。1年間を通して、魅力的なイベントが数多くあることから、本校は思い出づくりの名人と言われていると思います。

このように本校には、この学校でしか体験できないことがたくさんあります。私たちは、魅力あふれる学校で毎日楽しく過ごしています。学校紹介は以上です。

○奥田議員

26番、奥田夢詩です。奈良県での地産地消の促進について質問します。

地産地消の取組は、消費者に顔が見え、話ができる関係で、地場産物を購入する機会を提供するとともに、農山漁村の活性化を図る上で重要な取組です。しかし、ふだんから積極的に地元の食材を購入するように意識している人は少ないのが現状です。例えば奈良市の住民へのアンケートによると、家庭において食材を購入する際に、奈良県産のものを購入するように意識している人の割合

は約9.9%と低く、多くの人が商品を購入する際に地元産のものかどうかをあまり意識していないことが分かりました。これは、奈良市で行われたアンケートですが、奈良県全体でも同じような傾向が見られると思います。実際に私も家の食卓で出される食材について、その食材が奈良県産なのかどうかを意識せずに食べていたように思います。



(大和高田市立高田商業高等学校 奥田 夢詩 議員)

一方、第3期奈良県食育推進計画によると、県内の学校の給食において、地場産物及び県内製造品を活用している割合は、平成28年度は19.0%でしたが、令和2年度は26.5%になり、年々その割合が増加しています。これは、学校給食で地元の食材を積極的に使用するよう意識しているからだと思います。このことから、消費者が地元の食材を買うかどうかは、それぞれの人がそのことを意識しているかどうかが大きく影響すると考えます。もちろん奈良県でも地産地消を推進する取組を実施されていますが、消費者の意識や行動を変えることはとても難しいと思います。

現在、奈良県では、奈良県の農業を魅力ある産業にするための取組として、奈良県産農産物の輸出を支援する取組が行われていますが、それに加えて、奈良県産の食材を広く県民に知ってもらい、購入の際に意識して奈良県産の食材を選んでもらうような地産地消を推進する取組をもっと積極的に行う必要があると思います。

そこで、知事に質問します。奈良県民の県内消費の意識を高め、地産地消を促すための県内食材

の販売促進活動、さらには、農業の活性化について、どのようにお考えでしょうか、お聞かせください。

○山下知事

ご質問ありがとうございます。

奥田議員ご指摘のとおり、地産地消の推進は、消費者にとって新鮮な農産物を購入することができたり、安心感が得られるなどのメリットがあります。生産者には、流通経費の削減や販売チャンネル拡大による収益の向上が見込めるといったメリットがあります。県としても、広く県民の皆さんに県産農産物を知っていただき、県内での需要喚起を図ることで、地産地消を一層推進していきたいと考えており、このために、農産物直売所の支援や県産農産物の情報発信、学校給食での活用促進などに取り組んでいるところです。

まず、農産物直売所の支援としましては、地の味土の香と名前をつけている地元の農産物を販売する直売所のネットワークを構築しておりまして、これのPRや、ここに対する専門家の派遣、栽培技術の研修会の開催、そうした支援をこの農産物直売所に対してしております。これによりまして、平成19年度、この地の味土の香の売上げが42億円だったものが、令和4年度には100億円を超えておりまして、消費者にも生産者にもニーズのある県産農産物の販売拠点となっております。また、令和5年度には、奈良の食や農や林業の情報発信をするためのサイト「奈良コレ」を公開し、県産農産物を紹介するとともに、その料理が楽しめる飲食店の情報も発信をしております。現在、この「奈良コレ」には、約180の飲食店が登録をしております。さらに、県産農産物の認知度向上の取組として、生産者と消費者、料理人の相互交流を図る奈良フードフェスティバルなどのイベントを開催しておりまして、こうしたイベントを通じて県産農産物のPRを行っております。

県内の学校給食への支援につきましては、生産者組織や栄養士、関係市町村と協力しまして、会議を開催し、供給側と需要側のマッチングを行っ

ております。こうした取組によりまして、地場産物の活用率は、先ほど令和2年度で26.5%というご指摘がございましたが、令和5年には30.6%まで増加しております。また、学校給食では、パンの原料である県産小麦のニーズが高いことから、たんぱく含量の高い品種、はるみずきという小麦を本県の奨励品種にしまして、学校給食での活用に向けて取り組んでいるところです。

今後も、本県の農産物を広く知っていただく機会や購入できる機会を増やしていくことで、需要拡大につなげまして、地産地消を推進し、生産者の所得拡大や農業の活性化を進めていきたいと考えております。

ご質問ありがとうございました。

○長屋高校生議長

再質問はありますか。

ないようですので、次の質問を行います。

次に、聖心学園中等教育学校、29番、池田壮汰議員、30番、関翔太議員に発言を許します。

○池田議員

29番、池田壮汰です。聖心学園中等教育学校の紹介をします。



（聖心学園中等教育学校 池田 壮汰 議員）

本校は、中高一貫校であり、創立21年目と、非常に新しい学校です。本校の校訓は、「礼節・誠実・勇気・創造」の4つがあり、主に礼節を重んじて日々取り組んでいます。例えば登下校時には、校舎に向かって、正門の前で感謝の気持ちを

込めて一礼をすることや、式典では5秒礼をすることで、より深い礼節を体現しています。ほかにも、挨拶や言葉遣い、ちょっとした他者への気遣いなど、当たり前のことが当たり前にできるように意識しています。

本校は、少人数制であるため、先生と生徒の距離が非常に近く、先生方が生徒一人ひとりにきめ細やかに対応していただけるので、学習するに当たって、とてもいい環境です。特に探究学習に力を入れており、中学1年生から3年生までは、明日香プロジェクトという活動を行っています。それは、本校が位置する橿原市や明日香村について調べ、課題を発見し、解決策を模索していく地域創生型の探究プロジェクトです。そして、高校1年生から2年生では、大手企業から課されたミッションについて、自分たちのアイデアを提案するというオリジナルのアイデアを創造する探究学習プログラム「クエストエデュケーション」に取り組んでいます。昨年度は、全国大会にも出場し、3度目のグランプリを取ることができました。また、本校は、海外との交流の機会がとても多く、オーストラリアやセブ島への短期留学、海外への修学旅行に加え、海外の学校の生徒が本校に訪れて、実際に交流する機会などが設けられています。先日、本校の中学3年生と台湾から来日した生徒との交流会がありました。

このようにいろいろな体験学習や学校行事、社会奉仕活動を通して、社会人となる前に自分自身を磨き、自分の可能性を広げられることが本校の魅力です。学校紹介は以上です。

○関議員

30番、関翔太です。リニア中央新幹線と地域振興について質問します。

奈良県には世界遺産や有名な観光地がたくさんあります。しかし、大阪府や京都府などの近隣府県と比較すると、宿泊者数が大きく違います。観光庁の宿泊旅行統計調査によると、令和5年度の都道府県別延べ宿泊者数は、大阪府が約5,070万人、京都府は約3,213万人に対して、奈

良県は約265万人と少なくなっています。確かに大阪にはユニバーサル・スタジオ・ジャパン、京都には清水寺、京都タワー、伏見稲荷など、修学旅行生や若い世代が訪れたい魅力ある観光地がたくさんあります。奈良県にも橿原神宮や東大寺、春日大社がありますが、特に若い世代にとっては、大阪府や京都府の観光地のほうが印象深く感じるのかもしれません。



（聖心学園中等教育学校 関 翔太 議員）

特に私たちが一番課題に感じているのが、一度奈良県を訪れた人がもう一度行きたいと思って何度も訪れる、いわゆるリピーターになる人が少ないのではないかとことです。奈良県が特別な体験や感動的な出来事ができるところであれば、人は何度も訪れたいと思います。私たちは、観光客の方に奈良県での体験を通して、また行きたいと思える場所にしたいと考えます。

そのためには、アクセスしやすい便利な交通網があることが重要になります。そこで、現在の県内外をつなぐ交通網について調べていたところ、建設予定のリニア中央新幹線を県内に通す計画を目にしました。仮にリニア中央新幹線が開通すると、遠方への移動時間が非常に短くなり、全国から訪れることが容易になり、すばらしいと思います。しかし、現在、駅の設置場所の候補として挙げられているのは、北部のみとなっています。私は何度も奈良県を訪れてもらうためには、リニア中央新幹線の駅をもう少し南側に設置してはどうかと考えます。そうすれば、奈良県の北部だけでなく、奈良県全域に移動しやすくなり、奈良県の

中部や南部にも観光客を呼び込めると思うからです。特に奈良県の南部振興という県の課題を考えると、奈良県全域の活性化につながるリニア中央新幹線の建設計画を考える必要があると思います。

そこで、知事に質問します。奈良県の南部振興という県の課題も含め、リニア中央新幹線の誘致を奈良県のあらゆる地域の活性化に結びつけられるよう、リニア中央新幹線の駅設置場所をはじめとしたリニア中央新幹線の誘致に向けた検討が必要と思いますが、どのように考えているのか、お聞かせください。

○山下知事

ご質問ありがとうございます。

東京―名古屋―大阪間を新たなルートで超高速で結ぶリニア中央新幹線の駅位置及びルートは、基本的に事業主体であるJR東海が決定するものです。既に本県におきましては、JR平城山駅周辺、JR新駅周辺及びJR関西本線と近鉄橿原線が交差する場所付近、この3か所を駅の候補地として、昨年12月からJR東海によりルートの絞り込みや駅位置の選定の作業を進めております。県としても県有地の提供を行うなど、密接に連携、協力しているところです。ですので、いずれも奈良市、もしくは大和郡山市が今は候補地となっておりまして、今はこの3つからどれを選ぶのかということもJR東海が検討している段階です。

本県としましては、奈良市附近駅の位置は、観光、経済など、その整備効果が県内全域に及ぶように、在来線や幹線道路など、他の移動手段との接続や地域の将来的な発展可能性など、様々な要素を十分に考慮する必要があると考えており、リニア中央新幹線建設促進奈良県期成同盟会を奈良県や県内の市町村、経済団体などと組織していて、この期成同盟会の総会において、今申し上げたような、在来線や幹線道路など、他の移動手段との接続のよさや、地域の将来の発展可能性という考え方の下、一致協力して、リニア中央新幹線の奈良市附近駅の位置の早期決定をJR東海に促しているところです。

空港も新幹線の駅もない本県におきましては、リニア中央新幹線の開業への期待は非常に大きなものがあります。奈良市附近駅が本県全体、そして、さらには関西全体のゲートウエーとなりますよう、駅からのアクセス性の視点を十分に踏まえまして、ＪＲ東海の取組に協力をしていきたいと考えております。以上でございます。

○長屋高校生議長

再質問はありますか。— ３０番、関翔太議員。

○関議員

ご答弁ありがとうございました。

リニア中央新幹線の駅は、奈良市附近駅、すなわち県北部で検討されているとのことでした。どうしてもその方向で進めるということになるのでしたら、私は、せめてＪＲ関西本線と近鉄橿原線が交差する場所周辺を希望します。なぜなら、リニア中央新幹線で来られた人たちが近鉄橿原線で乗り換え、吉野方面の玄関口である橿原神宮前駅や下市口駅、吉野口駅、吉野駅に来ていただくことが容易になるからです。

このことを要望して、質問を終わります。ありがとうございました。

○長屋高校生議長

次の質問を行います。

次に、県立高円芸術高等学校、３５番、紙谷夢咲議員、３６番、柴原康太議員に発言を許します。

○紙谷議員

３５番、紙谷夢咲です。県立高円芸術高等学校の紹介をします。

県立高円芸術高等学校は、高円山の麓の自然豊かな場所に位置しています。グラウンドには天然の芝生が植えられており、度々、奈良公園の鹿が入ってくる、緑に囲まれた自然豊かな環境の中で日々学習活動に励んでいます。



(県立高円芸術高等学校 紙谷 夢咲 議員)

本校には、普通科だけではなく、音楽科、美術科、デザイン科があるのが特徴です。専門学科では、芸術について深く学べるのはもちろん、普通科でも伝統芸術探究という授業を選択することができ、能楽や箏曲など、日本の伝統芸能について学んでいます。校舎内には、美術科、デザイン科の生徒たちによる作品が様々な場所に展示されており、楽器の音色が一日中聞こえているので、生徒や先生方だけでなく、訪問されたお客様も芸術に触れることができます。

令和４年度に、前身の高円高等学校が創立４０周年を迎えることを機に、本校オリジナルキャラクターの募集が行われました。奈良県の鹿、グラウンドの芝生の緑、そして、校章に刻まれている白毫寺の萩をモチーフとした「たかまどはん」が選ばれ、生徒たちに親しまれています。学校紹介は以上です。

○柴原議員

３６番、柴原康太です。鹿との共生について質問します。

奈良県、特に奈良市は、休日、平日を問わず、多くの観光客でにぎわっています。奈良県を訪れる観光客は、歴史的建造物はもちろん、国の天然記念物に指定されている野生動物の鹿にも大きな魅力を感じているのではないのでしょうか。



(県立高円芸術高等学校 柴原 康太 議員)

鹿は、奈良県のマスコットキャラクターであるせんとかんのモチーフとしても扱われ、奈良県のシンボルの一つとして全国的にも認知されています。その鹿が奈良にもたらすメリットとして、まずは、鹿とふれあうことが観光目的の一つになっていると考えられます。また、奈良公園内での鹿煎餅の販売は、産業、観光業の振興につながっているととも言えます。一方で、鹿がもたらすデメリットも多くあります。例えば本校では、鹿によるグラウンドへのふん害、花壇に花や球根を植えても食べられてしまうという食害を受けています。また、学校周辺の田畑でも、フェンスを破り、農作物を荒らしている様子が見受けられますし、鹿サポーターズクラブのホームページ内の奈良公園のシカ相談室によると、鹿にかまれたり、たたかれたりするというトラブルが増えているそうです。逆に鹿が私たちから被害を受けている例もあります。奈良の鹿愛護会の調査によると、観光客が捨てたごみから食べ物の匂いがすることで、食べ物だと思って鹿がごみを食べてしまい、胃の中から約4キログラムものごみが見つかったと報告されています。

奈良県から令和4年4月に出された天然記念物「奈良のシカ」保護計画によると、重点保護地区については、共生に向けての取組が進められています。しかし、本校が位置する白毫寺町は緩衝地区となっており、本校への食害やふん害の現状を考えると、対策が十分ではないと思われます。春日大社の神様が白い鹿に乗ってやってきたという

伝説にちなみ、神の使いとして保護され、敬愛の対象ともなっている鹿ですが、全ての地域で持続可能な共生の方法を図っていかなければならないと思います。

そこで、観光局長に質問します。奈良公園の鹿について、奈良公園周辺に住む人々の安心・安全の暮らしを守りながら、人と鹿とが共生するために、奈良県としてどのような取組をお考えでしょうか、お聞かせください。

○竹田観光局長

奈良市一円に生息するニホンジカは、古来より春日大社の神鹿として愛され、昭和32年に国の天然記念物「奈良のシカ」として指定を受けまして、奈良公園のシンボルとして皆様に親しまれております。県におきましては、奈良のシカと人との共生を図るため、有識者等による奈良のシカ保護管理計画検討委員会を設置しております。その委員会におきまして、奈良のシカとの適切な接し方、また、農作物の被害防止についてこれまでから継続的に議論を重ねております。

その議論におきまして、奈良のシカとの適切な接し方や農作物の被害軽減対策に当たりまして、鹿の生息地域を次の4つの区分にしております。まず1つ目は、A地区、奈良公園と周辺平たん部エリアを重点保護地区としております。それから、2つ目は、B地区、その周りの部分になりますが、春日山原始林、若草山一帯を保護地区としております。それから、その外縁部、保護地区の外側の周辺エリアを緩衝地区ということで、C地区としております。さらにその外側の部分のエリアを管理地区、D地区としておりまして、それぞれの区分ごとに応じた保護管理の基準を定めまして、これに基づいて適切に取組を進めているところです。

具体的な取組ですが、保護の取組としては、春の子育ての時期や、秋の雄鹿の発情期に、鹿からかまれたり、たたかれたりすることを防ぐために、安全な接し方について、イラストなどによるチラシ、またはデジタルサイネージ、YouTubeの動画配信など、それぞれのものに依拠して注意喚起

を行っております。また、鹿の飛び出しによる車との衝突を防止するため、鹿の飛び出し注意の路面標示や看板の設置、鹿の道路横断防止柵などの設置を行っているところです。このほか、鹿が誤ってごみやビニール袋を食べて健康を害することがないように、県や各種ボランティア団体による公園内の清掃作業、それから、ポイ捨て防止の啓発活動を実施しております。

また、管理の取組ですが、柴原議員お述べのように、保護地区外側の緩衝地区であるC地区では、農地における食害対策として、県や奈良市が主体となって鹿の侵入を防ぐための防護柵の設置、あるいは、奈良の鹿愛護会が食害を起こした鹿の保護を行っているところです。また、住宅地などへの鹿の行動範囲拡大につながるような、奈良公園周辺での餌やりを禁止し、鹿の侵入対策として、奈良公園のシカ相談室が周知、啓発をしており、奈良のシカ相談室が中心になって住民の方からの相談にも応じています。

100年後も奈良のシカが今と変わらず奈良公園に元気で暮らしていくことを目標としまして、鹿と人が共生していけるよう、これまで申し上げたような様々な取組を継続しまして、奈良のシカの保護管理に努めていきたいと考えているところです。

ご質問ありがとうございました。

○長屋高校生議長

再質問はありますか。

これをもって県政に対する質問を終わります。